

港区長賞

人と自然の調和を図るには

赤坂中学校 大友 杏南

地球温暖化を防ぐためのキーワードは「バランス」だと考えている。私が、今年「バランス」だと思った体験を二つあげてみたい。

一つ目は、夏休みに行った気化熱と打ち水の実験のことだ。私達が便利な生活を求めた結果、エネルギーを大量に消費し二酸化炭素が発生し温暖化を招いている。昔ながらの打ち水の行為は、物理的にも精神的にも効果があるということが分かった。

二つ目は、夏季学園と海外派遣の経験を通して学んだことだ。夏季学園では、緑豊かな山村でコンビニもファーストフード店もなかった。初めは不便だと思っていた。しかし、夜空の景色は、素晴らしいものであたりは静けさと虫の声で都会では味わえない最高のものだった。また、港区の海外派遣で豪州を訪れたときのことである。豪州第二の都市パース市は、東京とは比較できないほどの緑にあふれ、自然と調和がとれた街並みに感銘を受けたがそれ以上にホームステイ先での節水の徹底の表れである「5分間シャワー」を家族皆が守っていることにいっそう驚いた。

この二つの体験から、快適な生活と自然との調和をどうバランスをとるかにについて考えてみた。楽をしたい、という精神的な欲望の追及が資源を消費し、自然環境のバランスを失い始めている。しかし、自然の豊かさを求める気持ちがあれば資源の節約は大変だとは思わないだろう。そして、一番良くないことは「どうせ何をやってもダメだ」という気持ちから何もしないこと。私達、中学生でも一人一人ができることをやってみる、そしてそのことを家族で話し合ってみることからなにかが見えてくるのではないだろうか。

今年のノーベル賞の「医学・生理学賞」を受賞することになった山中伸弥博士は「医学の研究を通じて人の役に立ちたい」との気持ちでiPS細胞を世界で初めて誕生させた。私は快適な生活と豊かな自然の調和をどうすれば図れるかについてこれからも考え、クラスの友達や先生、家族と語り合ってみたいと思っている。

講評

夏季学園、海外派遣の経験から、人と自然の調和、「バランス」が大切であること、そして、その視点で生活を見直すことを説いている。